

国語科学習主導案

指導者 高橋明子

1. 日時 平成18年7月7日(金) 1校時
2. 学級 2年1組 男子19名 女子16名 合計35名 南校舎2階
3. 主題 「聞く生活」を考えよう 目的に応じて聞く (光村図書「国語2」)

4. 主題について

本題材は、2年生の「話すこと・聞くこと」の学習では最初の題材である。学習指導要領A「話すこと・聞くこと」の指導事項「ア 広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。」、「イ 話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて、話したり、聞き取ったりすること。」をねらいとしている。これ以降、「話すこと・聞くこと」の題材は、2年生「提案の仕方を工夫しよう(プレゼンテーション)」、「小さな物語を探る(インタビュー)」、3年生「相手を意識して伝えよう(わかりやすく話す)」、「話し合って考えを深めよう(パネルディスカッション)」、「未来に向かって(今までとこれからを語り合う)」が設定されている。いずれも話す活動が伴うもの、あるいは話す活動が中心となっており、聞く活動のみを取り上げているのが本題材の特徴である。話す活動は常に聞く相手がいってこそ成立するものである。国語の授業のみならず、毎日の生活でも聞く場面は多い。これからの「話すこと・聞くこと」の活動にむけて、本題材で、状況や目的に応じた聞き方、正しく聞き取るための心構えを考えさせたい。

生徒たちは、話を整理しながら聞くことが苦手である。話の主旨をとらえず、大事な内容を聞き逃し、印象的な言葉があるだけで付加的な部分に反応してしまう生徒も見られる。また、話す速度が速くなるとそれだけで慌ててしまったり、メモを取ることに集中してしまったりする傾向も見られる。これらは、目的に応じて何を聞き取るべきかをしっかりとおさえて聞くことができていないからと考えられる。また、やや受動的な傾向があり、自分の考えと照らし合わせて聞くことをしないため、話のあとに意見を求められても答えられないこともある。考えながら聞く習慣がないために、「聞く」とことと「話すこと」が繋がらないからではないかと思われる。

そこで、本題材において、必要な情報を的確に聞き取るためのポイントと、望ましい聞き方について考えさせたい。必要な情報を的確に聞き取るためのポイントとしては、目的や状況に応じて予想して聞くことをとらえさせたい。話題によっても目的によっても必要な情報は異なる。5W1Hである場合もあれば、話し手の思いの場合もある。その時々に応じて話を予想して聞くことが、主体的な聞き手を育成する第一歩であると考えたのである。また、さまざまな目的や状況を設定した聞く活動を通して、その場面に応じて必要な情報を予想することの必要性にも気づかせたい。また、聞く力をつけるために、このような聞き方を意識して聞くことに慣れさせたい。そのための問題練習にもできるだけ多く取り入れたい。

5. 指導と評価の計画 (別紙)

6. 本時の達成目標

関心・意欲・態度	進んで聞く活動に取り組み、正確に聞き取ろうとしている。
話す・聞く能力	目的や状況をとらえて話の内容を予想し、必要な情報を聞き取っている。
言語事項	伝える情報や状況によって声量や問の取り方などに意図や工夫があることをつかんで聞き取っている。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

本時は、さまざまな聞く活動の中から必要な情報を予想して聞き取る学習である。情報を予想して聞くことが、的確に聞き取る技能、主体的に聞く態度の育成につながると考えている。設定された状況や場面をとらえて、必要な情報を予想して聞くことを意識させたい。聞く活動の状況、内容、目的は多様であるが、本時の聞き取り問題については、生徒にとって身近なものや興味関心を考えて取り上げた。話を聞き取る活動は、生徒が答えの正誤を自分で見直すことができないところに難しさがある。生徒が意欲的に学習できるよう、難易度の異なる問題の配列に配慮し、追究心を引き出したい。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

まず、導入において、既習事項とは条件が異なる例を示し、実際の聞く場面ではさまざまな内容の話をそれぞれの状況や目的に応じて聞く必要があることをおさえる。このことから学習の「必然性」を意識させ、学習課題を設定したい。見通しをもつ段階では、さまざまな目的や状況における聞く活動を提示し、必要な情報は何かを具体的に予想させたい。そこで確認したポイントを「よりどころ」として、聞く活動に取り組みさせる。複数の聞き取り問題を準備したが、難易度とそのつながりに留意して、学習の「必然性」を持たせるように配慮した。本時においては、「目的」「状況」「意識して聞く」「必要な情報」「予想して聞く」等の言語技能にかかわる「ことば」を適切に使わせ定着させたい。

8 . 本時の展開

A 達成度 B 学習態度 C 取り組み方(学習の仕方) D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の観点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導 入	出会う つかむ	10分	1 前時の学習内容を想起する。 2 前時とは条件が異なる聞き取り問題に取り組む。 3 学習課題を確認する。 話の内容を予想しながら、情報を的確に聞き取ろう。		1 5W1Hに注意して、自分に必要な情報は何かを考えながら聞き取ったことを思い出させる。 2 条件が異なると聞き取るべき情報も異なることに気づかせながら、学習課題の設定に必然性をもたせる。	一斉 学習シート テープ
展 開	見通す 繰り返す	25分	4 目的や状況によって異なる必要な情報を予想して発表する。 5 聞き取り問題(1)(2)(3)に取り組む。	4 [関心・意欲・態度] 目的に応じて必要な情報を予想して発表しようとしたか。 発表内容 A：キーワードの予測、具体的な課題意識 C：具体的で身近な場面を例として思い起こさせる。 5 [話す・聞く能力] 目的や状況をとらえて、内容をつけながら、情報を的確に聞き取っているか。 記述内容・発言内容 A：構成、相手の意図 C：話すことや読むことの既習事項を思い出させたり、友達と必要な情報は何かについて助言し合わせたりする。	4 E・F 日常生活にある「聞く場面」から、必要な情報を予想させる。 ・実験の説明 ・ねらい・手順・道具 ・注意点 など 5 B・C (1) 目的や状況から必要な情報を予想させ、聞き取り問題に取り組ませる。 ・料理の作り方 ・手順・材料・分量 ・道具・コツ など (2・3)(1)と同様に聞き取らせる。予想することで、要点をとらえやすかったり、疑問点に気づけたりすることに気づかせたい。	テープ
終 末	振り返る・確かめる	15分	6 必要な情報を正しく聞き取る方法をとらえる。 7 学習記録を書く。 8 次時の学習への見通しをもつ。		6 目的や状況に応じて必要な情報を予想することをおさえさせ、次の時間につなげたい。 7 板書を確認させて取り組ませる。 8 次時はさらに異なる条件の聞き取り問題に取り組むことを予告する。	学習の道しるべ